

電子書籍Yomokkaを活用した読書活動の開発について

別府大学短期大学部初等教育科 教授 古川 元 視

Development of reading activities using e-books Yomokka

FURUKAWA MOTOMI

【要旨】

これからは、Yomokkaなどの電子書籍を活用した読書活動も考えていく時代を迎えている。Yomokkaのよさは、いつでも、どこでも何度でも本を読めることである。また、同時に何人も同じ本が読めること、4500冊もの本がタブレットの中に入っていることである。

本研究は、29のYomokkaを活用した読書活動を構想した中から、読書紹介活動と読書記録活動の2つを実践し、児童のアンケート、担任のインタビュー、Yomokkaの読破数をまとめたものである。

2つの実践と児童へのアンケートや担任へのインタビューから、Yomokkaを活用した読書活動は、自由読書にはない1冊の本を巡り、学級全体で繋がるよさ（同時性、即時性）、他教科との連携（連携性）、選書の容易性などの良さがあることが分かった。それにより、Yomokkaへの読書意欲や読書量が増えることも分かった。

今後は、Yomokkaを活かした読書活動を年間通して実施し、カリキュラム開発や読書力の育成について検証していきたい。

キーワード 電子書籍 読書活動 Yomokka

1 はじめに

UKのNTL（国立識字基金）の調査“Children and young people's reading in 2024”¹⁾で「楽しむために読書をする8～18歳の割合」が過去最低の34.2%に減少した。日本においても全国学校図書館協議会が実施した「第69回学校読書調査」²⁾において、小学4～6年生が5月1か月間の不読者は8.5%と2021年度から微増しており、いまだに不読者が存在している。

令和5年3月、政府は、「児童の読書活動の推進に関する法律」に基づき、令和5年度からおおむね5年間にわたる子供の読書活動の推進に関する基本方針と具体的な方策を示した第五次「児童の読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定した。同計画における基本方針の1つとして、「デジタル社会に対応した読書環境の整備」

がある。

文部科学省は、平成30年度に「新しい時代における電子メディアと読書に関する調査」、令和3年3月には、「電子図書館及び電子書籍を活用した子供読書活動推進に関する実態調査 令和2年度 子供の読書活動の推進等に関する調査研究 電子図書館・電子書籍と子供の読書活動推進に関する実態調査」をまとめている。また、「令和4年度 子供の読書活動の推進等に関する調査研究 電子図書館・電子書籍と子供の読書活動推進に関する実態調査」³⁾では、電子書籍サービスを「すべて」または「一部」の公立図書館で導入している地方公共団体の割合は、令和2年度の調査の9.8%から29.4%に、同様に公立学校でも、令和2年度調査の2.0%から8.5%になり、導入が進んでいる。その中では、埼玉

県久喜市立太田小学校の電子書籍Yomokka（以下、Yomokka）を活用した自由読書の例なども掲載されている。

子供向け電子書籍は、AmazonKids+、U-NEXTキッズ読み放題、絵本ナビプレミアム、学研図書ライブラリー、ポプラ社「Yomokka」などがある。コンテンツ数、コンテンツ種類などは多様である。これらの中でもYomokkaは、約4500冊の本が、いつでも、どこでも、同時に複数の児童が同じ本を読むことができる電子書籍であるため、授業などで活用するには、便利である。YomokkaのHP⁴⁾には、「朝の読書の時間に」、「並行読書で授業に」、「授業支援ソフトと併用も」、「朝日小学生新聞でNIE授業に」、「すき間時間や自習にも」、「持ち帰ってご家庭で」というような活用シーンの紹介や「感覚的に使えるインターフェース」、「読みたい本がない時にも“本と出会える”機能」、「読書の履歴を記録できる“自分だけの本棚”」、「感じたことを表現できる“感想の記録・共有”機能」、「毎日ログインしたくなる“ポイント機能”」という児童・生徒向け機能の紹介やYomokkaの授業での活用を掲載している。

読書活動としては、小中学校読書活動研究会がアニメーション、ビブリオバトル、ブックトークなどを提案している。また、井上⁵⁾は、90もの読書活動のアイデアと読書力の系統化を提唱している。

そこで、令和6年6月からYomokkaを導入している学級において、読書活動を計画し、実際に実践してもらい、児童にとってYomokkaを活用した読書活動の有効性について調査することにした。

2 調査の目的

次のようなことを目的として調査を行った。

- (1) Yomokkaを活用した読書活動を構想し、実践する。
- (2) 読書活動後に児童にアンケートをすることで、Yomokkaを活用した読書活動の感想をまとめる。
- (3) 担任にインタビューをすることで、Yomokkaを活用した読書活動のよさをまとめる。

(4) 児童にアンケートをすることで、Yomokkaを活用した読書形態と読書意欲を分析する。

(5) Yomokkaを活用する読書活動の可能性と今後の展望を構想する。

3 調査の方法

(1) 調査の対象

大分県内の小学6年生 24名

(2) 調査の手順

- 1) 筆者が作成したYomokkaを活用した29の読書活動の中から、担任や学校司書と相談をして、学級や児童の実態に即した読書活動を2つ選択する。
- 2) 2つのYomokkaを活用した読書活動を担任に実施してもらう。
- 3) 読書活動後に、児童にアンケートや担任へのインタビューを実施する。
- 4) 2つの読書活動前と期間中のYomokkaの読書量を比較する。

(3) 調査の時期

令和6年12月

(4) 倫理的配慮

本研究は、研究の目的、方法、個人情報保護、研究参加の自由、研究不参加での不利益がないこと、研究成果の公表、問い合わせ先について、所属長や保護者に説明し、協力の許可を得た。この調査は別府大学・別府大学短期大学部研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。(承認番号2024-7)

(5) 調査問題の実際

次のようなアンケートを児童に実施した。

1 友だちからしょうかいされた本をYomokkaで読む読書活動をしましたが、楽しかったですか。

ア とても楽しかった

イ 楽しかった

ウ あまり楽しくなかった

エ 楽しくなかった

2 それは、なぜですか。(複数回答可)

ア 自分では選ばない本だったので、新しい本との違いがあったから

イ 読んでみたら本の内容がおもしろかったから

ウ Yomokkaなので、すぐにしょうかいされた本を読むことができたから

エ Yomokkaなので、友だちといっしょに読むことができたから

オ 読んでみたら内容がおもしろくなかったから

カ 自分で読む本は自分で選びたいから

キ その他 ()

3 外国の本を読む読書活動は楽しかったですか。

ア とても楽しかった

イ 楽しかった

ウ あまり楽しくなかった

エ 楽しくなかった

4 それは、なぜですか。(複数回答可)

ア 外国の本をYomokkaで探すのが楽しかったから

イ 友だちが読んでいた外国の本を友だちと同時にYomokkaで読むことができたから

ウ 外国の本の内容がおもしろかったから

エ 白地図に書くのが楽しかったから

オ 外国の本を読むのが難しかったから

カ その他 ()

5 Yomokkaでどのような読み方が好きですか。(複数回答可)

ア 自分で自由に読書できる自由読書が好き

イ 授業中に読むのが好き

ウ 本を紹介したり、外国の本を読んで白地図に印を付けたりなどの読書活動が好き

エ その他 ()

6 今までよりのYomokkaを使って本を読むようになりましたか。

ア 今までよりとても読むようになった

イ 今までよりも読むようになった

ウ 変わらない

エ 今までよりも読まなくなった

オ 今までよりもとても読まなくなった

4 読書活動の実際と考察

(1)「友だちからのお薦めの本にチャレンジしよう！」読書紹介活動の実際と考察

1) 読書紹介活動案

本読書紹介活動は、Yomokkaの導入で友だちから紹介された本が学級全体に次々と広がったことがあるため、次のような読書紹介活動を実践することにした。

読書活動名	友だちからのお薦めの本にチャレンジしよう！（以下、読書紹介活動）
指導のねらいとポイント	自分では選書しない友だちからのお薦めの本を読むことで、多様な本を読むことができる。できるだけ最後まで読むように薦める。
付けたい力	表現力、選書力
教師が準備するもの	タブレット、ワークシート、ロイロノート

児童が準備するもの	タブレット, ロイロノート
読書活動に要する時間	①～③・・朝の読書の時間+家庭学習 ④～⑥・・45分
活動手順	①教師がくじを引いてペアを決める。 ②ペアの相手が読んでいないであろう本を6冊Yomokkaで選ぶ。 ③教師から送信されたワークシートにペアの相手に紹介するための簡単な粗筋などを書き、1～6までの番号を付ける。 ④教師がサイコロを振り、1～6までの番号の中から1冊選ぶ。 ⑤選ばれた番号の本をお互いに読む。 ⑥早く読み終わったら、他の番号の本を読む。

② 読書活動後の児童へのアンケートの結果と考察

ア アンケート1・2の趣旨

読書紹介活動の楽しさやその理由を尋ね、Yomokkaが読書の機会を増やす手立てになっているのかを知りたかった。

イ アンケート1・2の結果と考察

読書活動後の児童のアンケートの結果は次の図1のとおりである。

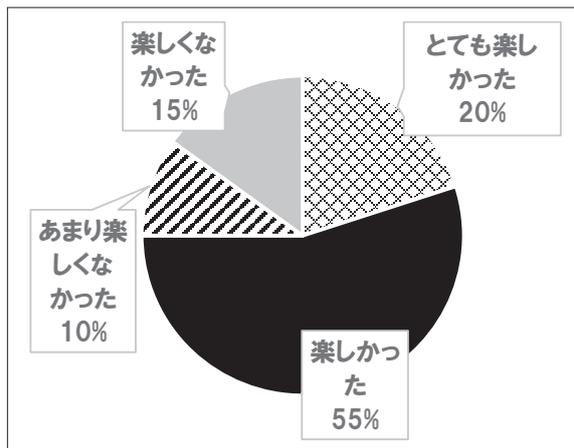


図1 読書紹介活動の楽しさ

2) 読書紹介活動の実際と考察

① 読書紹介活動の実際

教師がくじ引きでペアを決めたため、仲良しのペアにはならなかった。相手が読んでいない本を考えることも楽しかったようだ。

「とても楽しかった」「楽しかった」と合わせると、75%にも上る。理由は、図2のとおりである。「楽しさ」の理由としては、新しい本との出会いと本の内容のおもしろさが断然多かった。自分では選書しない本との出会いを楽しんだことが伺える。Yomokkaの本の豊富さが要因であろう。

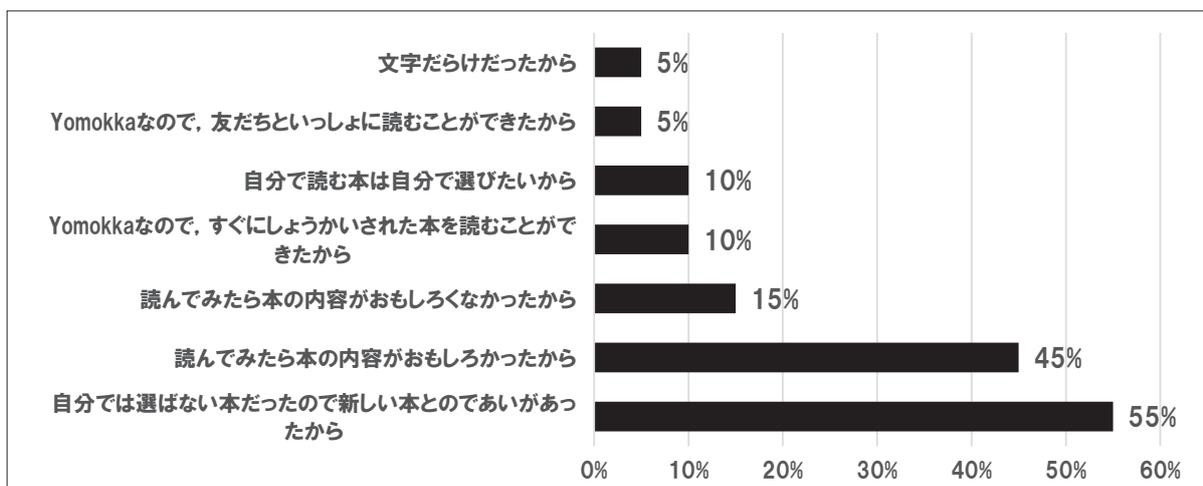


図2 読書紹介活動の楽しい・楽しくないの理由

- ③ 読書紹介活動後の担任からのインタビュー
読書紹介活動の実施中はとても雰囲気がよく、友だち同志1冊の本を巡って話し合いをしていた。選書の視野が広がり、Yomokkaの即時性、同時性を活かした読書活動だった。



図3 友だちからのお薦めの本を読む

(2) 「世界の作家が書いた物語を読み、世界地図に表そう！」読書記録活動の実際と考察

1) 読書記録活動案

本読書記録活動は国語科の単元の繋がりから生まれた読書活動である。

読書活動名	世界の作家が書いた物語を読み、世界地図に表そう！（以下、読書記録活動）
指導のねらいとポイント	世界の作家の翻訳された本を読み、世界地図に記入することができる。グループで世界地図1枚でもよいし、世界地図を大陸ごとに分けて記入してもよい。
付けたい力	多読力、読書記録力
教師が準備するもの	タブレット、世界白地図、ロイロノート
児童が準備するもの	タブレット、ロイロノート
読書活動に要する時間	①～②・・・45分 ③～⑤・・・45分

活動手順	<p>①Yomokkaで外国の物語を見つける。</p> <p>②見つけた外国の物語の作者の出身国を調べて、物語を読む。</p> <p>③表紙をスクリーンショットで写し、白地図に貼り付ける。</p> <p>④グループで③で貼り付けた情報を整理する。</p> <p>⑤グループでまとめたものを基に学級全体で気付いたことを話し合う。</p>
------	---

2) 読書記録活動の実際と考察

① 読書記録活動の実際

児童は普段読んでいる本が、日本の本、外国の本という区別はあまりないようだった。本読書記録活動で、初めて外国の作家が執筆したという認識がでてきたようである。

② 読書記録活動後の児童へのアンケートの結果と考察

ア アンケート3・4の趣旨

読書記録活動での楽しさやその理由を問うことでYomokkaの活用方法を知りたかった。

イ アンケート3・4の結果と考察

読書記録活動後のアンケートの結果を見ると（図4）、「とても楽しかった」「楽しかった」を合わせると、90%にのぼり、楽しい読書記録活動であったことが分かる。理由としては、外国の本の内容の面白さ、外国の本をYomokkaで探す楽しさ、白地図に書き込む楽しさが上位を占める。Yomokkaの検索の容易性や本の豊富さ、読書活動のアイデアの良さがでている。（図5）

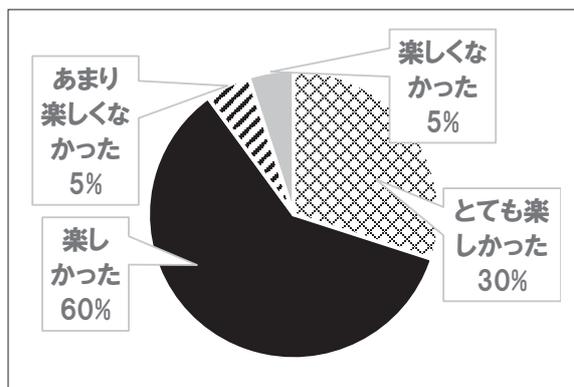


図4 外国の本を読む読書活動の楽しさ

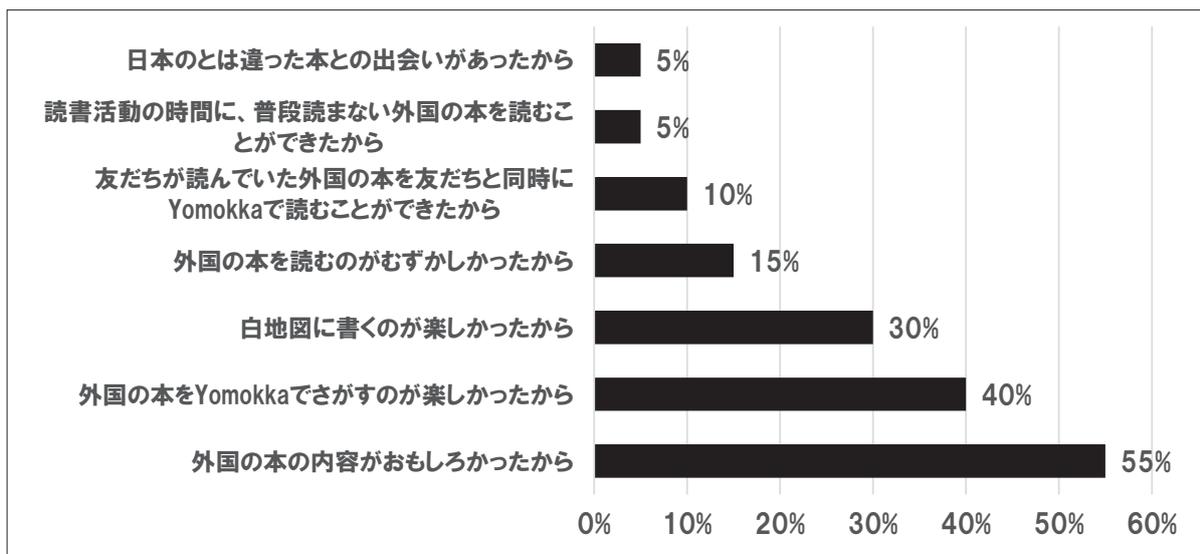


図5 外国の本を読む読書活動の楽しい・楽しくないの理由

③ 読書記録活動後の担任からのインタビュー

白地図に学級で集約したところ、児童はヨーロッパの作家が書いた物語が多いこと、特に、イギリスの作家の物語が多いことに気付いた。なぜ、イギリスの作家が多いのかを調べる活動へと繋がっていった。児童はYomokkaの検索機能のよさと同時にアメリカやロシアの物語の蔵書が少ないことをYomokkaの課題として挙げていた。

(3) 「友だちからのお薦めの本にチャレンジしよう！」読書紹介活動と「世界の作家が書いた物語を読み、世界地図に表そう！」読書記録活動前後のYomokkaの読書量の変化

2つの読書活動前（12/1～12/8）と読書活動中（12/9～12/16）のYomokkaの読書冊数を比較し、Yomokkaを活用した読書活動で読書量の変化を見ることにする。結果は図6のとおりである。2つの読書活動前と期間中のYomokkaの学級での読破冊数を比較すると明らかに増加していることが分かる。個人別にみると、増えた児童は11人、変わらない児童は8人、減った児童は3人であり（欠席2人）、不読者はいなかった。読書活動を計画的に実施することが、Yomokkaの読書量を増やすことに繋がっていることが分かる。

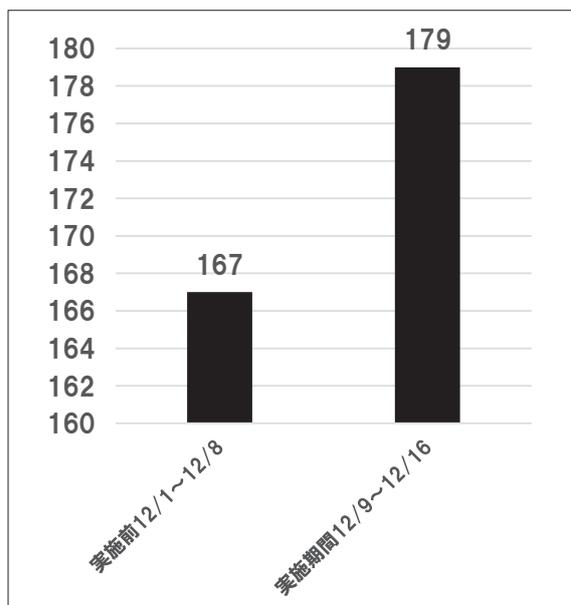


図6 2つの読書活動前と実施期間中のYomokkaの読破数の比較（学級）

5 Yomokkaを活用した読書のアンケートの結果と考察

(1) 児童へのYomokkaを活用した読書のアンケートの結果と考察

1) アンケート5・6の趣旨

本学級の児童に令和6年6月からYomokkaが導入された。Yomokkaは、授業中、または、自由読書で活用されることが多かった。まとまった読書活動でYomokkaを活用したのは、初めてである。そこで、Yomokkaをどのような読

書形態で活用したいかを児童に尋ねた。

また、Yomokkaを導入後の読書意識の変化を児童に尋ねた。

2) アンケート5・6の結果と考察

予想した通り、児童が一番好むのは自由読書である。(図7)やはり、好きな時間(随時性)に好きな本を選書して読む魅力があるのだろう。

では、児童はYomokka導入前と後では、読書への意識はどのように変化したのだろうか。図8を見ると、「とても読むようになった」「読むようになった」と答えた児童を合計すると80%にもなり、図6と重なる。児童にとってYomokkaを導入したことが読書する機会の増加につながり、読書意欲が向上したことが伺える。

(2) 2つの読書活動後の担任へのインタビューと考察

自由読書では見ることができない次のような児童の姿の報告があった。

- Yomokkaの1冊の本を巡り、友だち同士で読み合うことが多かったので、友だち関係づくりにつながった。
- 児童が、積極的に他教科と関連付けながら読書をしていた。
- 本を話題にして、Yomokka内の本を確認しながらグループや学級で話し合うことができた。
- 児童個人に目を向けると、Yomokkaを含めた多読全校1位を学級から初めて輩出できた。
- タブレット操作が好きな児童がYomokkaにはまり、選書の幅が広がった。

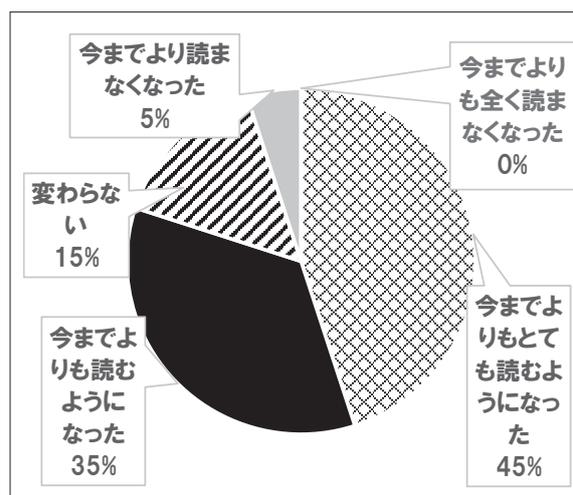


図8 Yomokka導入前後の児童の読書の変化

- Yomokkaの導入でさらに読書意欲が増し、家庭での電子書籍Kindleと区別をした読書が生まれた。

6 Yomokkaを活用した読書活動の可能性と今後の展望

これからは、Yomokkaなどの電子書籍を活用した読書活動も考えていく時代を迎えている。Yomokkaのよさは、いつでも、どこでも、何度でも本を読めることである。また、同時に何人も同じ本が読めること、4500冊もの本がタブレットの中に入っていることである。

これらの実践と児童へのアンケートや担任へのインタビューから、Yomokkaを活用した読書活動は、自由読書にはない1冊の本を巡り、学級全体で繋がるよさ(同時性、即時性)、他教科との連携(連携性)、選書の容易性などの良さがあることが分かった。それにより、Yomokkaへの読書意欲や読書量が増えることも分かった。

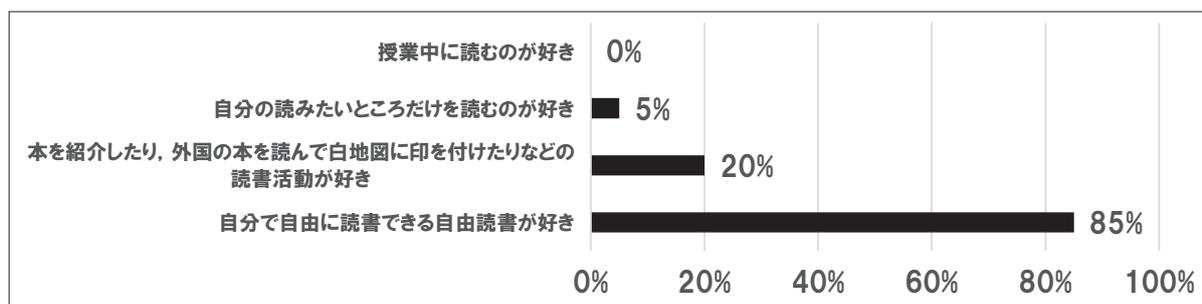


図7 児童が好むYomokkaの読書形態

今後は、Yomokkaを活かした読書活動を年間通して実施し、カリキュラム開発や読書力の育成について検証していきたい。

7 引用文献

- 1) National Literacy Trust. (2024年).
Children and young People's reading in 2024.
<https://literacytrust.org.uk/research-services/research-reports/children-and-young-peoples-reading-in-2024/>
- 2) 全国学校図書館協議会. (令和6年). 第69回学校読書調査
<https://www.j-sla.or.jp/material/research/dokusyotyousa.html>
- 3) 文部科学省からの委託 株式会社リベルタス・コンサルティング. 「令和4年度 子供の読書活動の推進等に関する調査研究 電子図書館・電子書籍と子供の読書活動推進に関する実態調査」. (令和4年).
https://www.mext.go.jp/content/20230607-mxt_chisui02-000008064_2.pdf
pp6,pp68,69
- 4) Yomokka ! (よもっか!) こどもっとラボ
ーポプラ社.
<https://kodomottolab.poplar.co.jp/mottosokka/yomokka/>
- 5) 小中学校読書活動研究会『これならできる！楽しい読書活動』学事出版株式会社, 2025年3月16日 pp7 ~ pp121
- 6) 井上一郎『読書力をつける 上巻・下巻ー読書活動のアイデアと実践例16』明治図書, 2002年12月

付記

本研究の調査にご協力いただきました大分県内の小学校に心より感謝申し上げます。